令和８年度　学力向上を図るための全体計画

小平市立上宿小学校

○日本国憲法
○教育基本法
○学習指導要領
○東京都教育目標
○小平市教育目標

学校教育目標
◎かしこい子
○やさしい子
◎がんばる子
○じょうぶな子

○学校、地域の実態
○地域の期待や願い
○保護者の期待や願い
○教職員の願い
○期待される児童像

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

・明確な「めあて」の提示と「振り返り・まとめ」のある授業をスタンダードにする。

・算数における全学年習熟度別指導を行う。

・朝学習の時間にデジタル及び紙ベースの練習問題に取り組み、基礎的・基本的な内容の定着を図る。

・生活科、総合的な教科等横断的な学習を通して、自ら課題を設定し、主体的に考え、探究する力を育む。

・学習者用端末を効果的に活用し、個別最適な学びとなるような授業展開となるようにする。

教科の指導を通して
○「分かる」「できる」を実感できるようにする。
○個々の学びをより確かなものとする。
○「調べたい」「考えたい」「伝えたい」を伸ばす。
○考え伝えることのベースとなる言語能力を育成する。
○情報活用能力の育成を図る。
○運動好きな児童を育成する。
○地域・家庭と連携してこどもの学びを支える。

上宿小学校における確かな学力

○「確かな学力」とは、生涯に渡って学び続けようとする力であり、知識や技能だけでなく、学ぶ意欲や自ら課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力までを含めたものである。

○本校では、学習指導要領に示された基礎・基本を重視し、次の力を育成する。
◎主体的に学習に取り組む態度
◎思考力、判断力、表現力
◎知識、技能

道徳教育を通して
○「相手の立場を考え、心を通わせ、互いに支え合う子」を育てることを目指して、特別の教科道徳を中心として教育活動全体を通じて行う。
○道徳授業地区公開講座は「生命尊重」の授業を全校で実施し、家庭や地域の教育力を高める場として、三者協働で「心の教育」を推進する。

総合的な学習の時間の指導を通して
○自ら課題を見付け解決する力と、自己の生き方を問い続ける力を育成する。「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の過程を生かした探究的なプロセスで学習ができるようにする。

特別活動の指導を通して
○社会に参画する態度や自治的能力を育成する。そのために、児童の発達段階に即し、より主体的な活動となるように、学級活動・児童会活動・クラブ活動・学校行事を実践する。

進路指導を通して
○個性や能力の伸長、自己実現への意欲をもたせる。そのために、異学年交流だけでなく、近隣高校・幼稚園・保育園等との心の交流を深める。

生活指導を通して
○自らすすんで挨拶できる児童を育成する。そのために、毎月の「あいさつＤＡＹ」や毎学期の「あいさつ週間」を地域に広げていくとともに、教員から積極的に声かけを行う。

上宿小学校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
○個に応じた指導や、算数習熟度別指導等の工夫・改善の推進。 ○問題解決学習や体験的な学習を意図的に設定。 ○学習者用端末などの ICT 機器の効果的な活用。	○週ごとの指導計画に基づく計画的な指導。 ○朝読書や朝学習（上宿タイム）の設定による基礎・基本の徹底。	○「自ら学び続ける児童の育成」をテーマにした実践研究。 ○校内研修会・公開授業の定期的実施。互いの授業を見合って、授業力の向上を目指す。 ○市の研究推進校として研究の成果を発表する。	○指導計画と評価計画が一体となった年間計画の作成。 ○評価規準の設定とそこに到達させる指導の手だてを明確にした授業の実施。	○学校便りやホームページ更新等による家庭や地域へ向けた積極的な情報公開。 ○基礎・基本の習熟を図るために地域人材を活用。

令和８年度　授業改善推進プラン　第１学年　　小平市立上宿小学校

各教科等	児童の実態	課題（児童に身に付けさせたい力）	改善案（具体的な手立て）	評価の方法
国語科	姿勢や鉛筆の持ち方を意識しながら、興味をもって文字を丁寧に書こうとしているが、定着は不十分である。楽しみながら音読に進んで取り組んでいるが、読み飛ばしや読み間違いをする児童もいる。運筆や鉛筆の持ち方に不安定さが残っている。	①「は」「を」「へ」や拗音・促音を正しく使うこと。 ②正確に音読すること。 ③語彙が増え、豊かな表現をすること。 ④ひらがなを正しい形で書くこと。	①書こうとする意欲を大切にしながら、文を書く時間を意図的に設け、文字を正しく使えるようにする。 ②児童の音読を聞き、評価を行う。 ③言葉集めや言葉遊びを繰り返し行い、語彙を増やす。 ④ノートなどのマス目の十字線を意識させる。	授業の中での音読や音読発表会の様子で評価する。 ノート・ドリル記述の様子で評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
算数科	基礎コースでは、学習内容を確実に習熟できるよう、教科書の例題に取り組んでいる。発展コースでは、自分の考えをもち、表現できるよう取り組んでいる。	①文章題を読み、演算決定し、正しく立式すること。 ②たし算やひき算の計算を正確にすること。	①イラストや具体物を使って問題場面を想像しながら、演算決定を判断させる。 ②習熟の時間を継続的に確保する。	ノートの記述や授業中の発言で評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
生活科	活動や体験の中で見つけたり比べたりして気付いたことを言葉や絵で表現しようとしている。	①気づきの質を高め、気付いたことを言葉や絵で表現すること。	①交流活動を充実させ、自分の気付きと友達の気付きを比べさせる。	活動の様子、記録カードへの表現（絵や文）などを通して評価する。
音楽科	意欲的に音楽活動に、取り組んでいる。楽曲に合わせて拍を打つ活動では、友達と楽しみながら活動している。	①友達と音や声を合わせて、協働して音楽に親しむこと。 ②友達の歌唱や器楽に触れ、自分や友達の良さに気付くこと。	①友達と音や声を合わせる歌唱やリズム遊びの常時活動を取り入れ、協働して活動する楽しさを感じられるようにする。 ②歌唱や器楽の活動では、聴き合ったり、一緒に演奏したりするペアやグループの学習形態を工夫する。	活動の様子、発言内容、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	作ること描くことに意欲と関心をもち楽しく取り組んでいる。自分や友達の作品のよさを感じ取り、味わっている。	①感じたことや想像したことから、したいことを見付けて表すこと。 ②材料や用具の基本的な扱いを身に付けること。	①児童がやってみたいと思える導入の工夫をする。 ②材料や用具の正しい使い方や特徴についてスモールステップで丁寧に指導する。繰り返し基本を確かめる。学習補助員を活用して個別指導の充実を図る。	活動の様子・発言・作品などを通して評価する。
体育科	きまりを守りながら、友達となかよく運動遊びに取り組んでいる。遊びの工夫を考えるときに、友達の意見を受け入れる力を伸ばす必要がある。	①体の動きや各種運動の基礎となる動きを身に付けること。 ②運動を楽しくできるような工夫を考えること。	①さまざまな運動遊びに取り組み、多様な体の動かし方を経験させる。 ②運動遊びの初めのルールを簡素なものにし、工夫できる余地を十分に残しておく。	活動の様子・発言や児童の自己評価、学習カードの内容などを通して評価する。
道徳科	登場人物の気持ちを考えることを通して、道徳的価値の意義や大切さを理解しようとしている。	①道徳的価値に関わる事象を考えることを通して、価値理解・他者理解をできるようにすること。 ②自己の生き方について考えを深めること。	①自分の考えと友達の考えを比べることを通して、物事を多面的･多角的に考えることができるようにする。 ②「考え・議論する道徳」となるように話合い活動の充実を図る。自己の生き方の課題を見付け、解決しようとする思いや願いを深める。	ワークシートの記述や発言を通して考えの深まりを評価する。

令和８年度　授業改善推進プラン　第２学年　　小平市立上宿小学校

各教科等	児童の実態	課題（児童に身に付けさせたい力）	改善案（具体的な手立て）	評価の方法
国語科	音読、読書、漢字練習に意欲的に取り組んでいる。登場人物の気持ちを考えて読むことや、考えたことを表現することを意識しながら取り組んでいる。順序や組み立てを考えて文章を書くことに意欲的に取り組んでいる。	①文章を正しく音読したり、時間的な順序や事柄の順序から内容の大体を捉えたりすること。 ②経験したことや想像したことから書く内容を決め、事柄の順序や大事なことを集め、正しく分かりやすく書くこと。 ③正しく漢字を書いたり読んだりすること。	①時間的な順序や、事柄の順序が分かる言葉に着目して読み進めることができるようにする。 ②題材を決め、必要な事柄を集め、簡単な組み立てを考えながらマス目の用紙に文章を書く学習過程を設定する。書くことに慣れるために日記に取り組む。 ③筆順や読みを確かめ、漢字ドリル・ドリルノートに取り組み、小テストを行う。間違った漢字は必ず直す時間を設定する。学習者用端末も活用する。	発表内容やノートの記述、ワークシート、作文などを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
算数科	基礎コースでは、学習内容を確実に習熟できるよう、教科書の例題に取り組んでいる。発展コースでは、自分の考えをもち、交流の場で自己の考えを発信できるよう取り組んでいる。	①文章題を正しく読み、演算決定し、正確に立式すること。 ②時計を読んだり、時刻、時間を計算で求めたりすること。 ③長さやかさの量感をつかむこと。単位関係を整理し、適切な単位の選択ができること。	①　　文章題の大切な部分に印を付けたり、学習者用端末を活用して図に表し、場面を整理したりしながら立式するように指導する。 ②　　時計を読んだり、時間を考えたりする際に大切なことを押さえるとともに時刻や時間に触れる算数的活動を充実する。 ③　　長さやかさを計測する算数的活動を取り入れる。	単元ごとに、ノートの内容や発言などを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着度を確認する。
生活科	自分たちが「したい！」「やってみたい！」「もっとしりたい！」と感じたことに興味をもって調べたり考えたりしている。観察したことを言葉や絵で表現しようとしている。	①主体的に課題に取り組み、気付きを広げていくこと。 ②気付いたことを記録カードなどへ整理してまとめること。	①児童の活動意欲を大切にし、気付きの質を高められるように課題の設定を工夫し、見通しをもって活動できるようにする。 ②記録カードなどへの記録は、学習者用端末を活用したり、他教科との関連を図ったりしていく。	観察の仕方や活動の様子、記録カードへの表現（絵や文）などを通して評価する。
音楽科	意欲的に音楽活動に取り組んでいる。リズムに合わせて体を動かす活動で、楽しんでいる。	①友達と音や声を合わせて、協働して音楽に親しむこと。 ②友達の歌唱や器楽に触れ、自分や友達の良さに気付くこと。	①友達と音や声を合わせる歌唱やリズム遊びの常時活動を取り入れ、協働して活動する楽しさを感じられるようにする。 ②歌唱や器楽の活動では、聴き合ったり、一緒に演奏したりするペアやグループの学習形態を工夫する。	活動の様子、発言内容、ワークシート、発表などを通して評価する。
図画工作科	友達と関わり合いながら楽しく興味・関心をもって造形活動に取り組んでいる。	①　　感じたことや想像したことから、表したいことを見付けて表すこと。 ②材料や用具の基本的な扱いを身に付けること。	①　　導入や活動の途中で、互いの考えを共有したり、制作過程の作品を鑑賞したりして、発想の広がりを促す。 ②材料や用具の正しい使い方や特徴についてスモールステップで丁寧に指導する。繰り返し基本を確かめる。学習補助員を活用して個別指導の充実を図る。	活動の様子・発言・作品などを通して評価する。
体育科	関心・意欲をもち、自ら活動に取り組んでいる。かけっこ・表現リズム遊び等、意欲的に活動している。	①きまりを守って、仲良く運動すること。 ②運動の日常化につながるような指導をすること。	①ルールを守って運動することの意義を指導し、全員が楽しく安全に運動できる環境を整える。 ②固定施設や器具を使った運動遊びに親しむように活動を工夫する。	活動の様子や発言、児童の自己評価、学習カードの内容などを通して評価する。
道徳科	登場人物の気持ちに共感することを通して、道徳的心情・態度を養っている。	①内容項目の理解を通して、人間理解、他者理解をできるようにすること。 ②自己の生き方について考えることができるようにすること。	①内容項目の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的･多角的に考えることができるようにする。 ②学級全体での「考え・議論する道徳となるよう」話合い活動の充実を図る。自己の生き方の課題を見付け、解決しようとする思いや願いを深める。	自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容などを通して評価する。

令和８年度　授業改善推進プラン　第３学年　　小平市立上宿小学校

各教科等	児童の実態	課題（児童に身に付けさせたい力）	改善案（具体的な手立て）	評価の方法
国語科	一定数の児童は音読、読書に意欲的に取り組むことができている。漢字の学習においては正しい筆順や正確な書き取りに抵抗を感じている。順序や内容の中心を意識して読むことや、相手に伝わるように工夫して書くことを意識しながら取り組んでいる。 「書く」機会が少なくなっていることで、既習の漢字の書き取りに課題がある。音読の際の、読み飛ばしや読み間違い・読み替えも多い。	①相手に伝わるように、理由や事例を挙げながら話すことや必要なことを記録したり質問したりしながら聞くこと。 ②目的を意識して、書く内容の中心を明確にして構成を考え簡潔に文章に表すこと。 ③漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方を理解して文や文章の中で使うこと。漢字の筆順を意識して書くこと。 ④正しく文章を読むこと。	①理由や事例を意識しながら話す場や、話の中心に気を付けて聞きながら自分の考えをまとめる場を設定する。 ②目的を意識できるように身近なものや他教科と関連付ける内容を設定する。メモを活用しながら、文章の構成を考えることができるようにする。 ③学習した漢字を文や文章の中で使う機会を設定する。漢字の筆順や読みを必ず確認する。定期的に小テストを実施する。 ④授業の中で音読する際、正しく読むためのポイントを示す。	毎時間ねらいに沿った評価を設定し、発表内容や授業の様子やノート記述等から評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。 漢字の小テストを活用して、定着を確認する。
社会科	自分たちの住んでいる町について調べたり、比較して気付いたことをまとめたりすることに意欲的である。 市内の施設に興味をもっているが、市の東側に行ったことのない児童も多く、理解が不十分である。	①地域社会の様子や特色に気付き、事象と事象を関連付けること。 ②地図等の資料を読み取ること。	①作業的・体験的な学習を積極的に取り入れ、実感をもちながら学習できるようにする。（社会科見学・新聞作り・学習者用端末の活用など）また、気付きを共有する時間を多く設ける。 ②方位の理解や地図の読み方等を確認する時間を繰り返し設定する。	発表やノート、新聞などの記述等から気付きや分かったこと、まとめ方を評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
算数科	基礎コースでは、学習内容を確実に習熟できるよう、教科書の例題類題に取り組んでいる。発展コースでは、より多くの練習問題を解き、習熟を図るとともに、自分の考えの発信にも重きを置き、表現することにも意欲的に取り組んでいる。補充コースでは、前学年までの学習内容の理解が不十分な場合もある。	①基礎の定着。簡単な絵や図、式に表して、自力解決すること。他者に自分の解決方法を説明すること。 ②水のかさや長さの単位関係を整理し、適切な単位の選択ができること。 ③たし算やひき算、かけ算の計算を正しくすること。	①　　基礎的なことを繰り返し指導する。絵や線分図に表して考える方法(手だて)を具体的に例示し、指導する。毎時間、解決の見通しを共有する時間を多く設ける。 ②身の回りの物と関連付けながら、測定する活動を積極的に取り入れる。 ③デジタルドリルを活用して既習の内容も定期的に取り組ませ、計算の習熟を図る。	活用した手だてや答えを導き出すまでの一人一人の考え、用語や用具の使い方を、ノート記述や発表、説明などを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
理科	身近な生物や自然について意欲的に観察したり、調べたりしている。	①器具を正しく用いて、観察・実験に取り組むこと。 ②共通点や差異点に気付き、問題を見いだすこと。	①器具を用いた活動を増やし、器具の操作に慣れるようにする。 ②単元の導入で２つ以上の事象を見せ、比べることで問題を見いだせるようにする。	授業中の発表、ノートや観察カードでの表現などを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
音楽科	歌唱やリコーダーの演奏に意欲的に取り組み、音楽に親しんでいる。演奏の技能は個人差が大きい。	①曲のよさや面白さを感じとり、どのように表現したいか思いや意図をもつこと。 ②表現を工夫するために必要な、基本的な技能を身に付けること。	①どのように表現したいか考えることができるようにするための発問を工夫する。一人一人の考えを見取ることができるワークシートや授業形態を工夫する。 ②表現活動の時間、習熟のための練習時間を確保する。個に応じた指導の充実を図る。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	表したいことを考えながら、色や形を工夫して、表現することを楽しんでいる。新しく学ぶ道具に関心を高くもっている。個人差が見られる。	①感じたことや、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。 ②材料や用具の扱いを身に付け、特徴を生かし、表し方を工夫すること。	①友達の完成した作品だけではなく、制作過程の作品を提示し、活動の意欲や発想を広げることにつなげる。 ②材料や用具について正しい使い方や特徴を学習する時間を設定し、繰り返し確かめる。学習補助員を活用し個別指導を充実する。	活動の様子・発言・作品などを通して評価する。
体育科	運動への関心が高く、課題解決に向けて意欲的に取り組んでいる。	①運動技能を高めるための方法や工夫を個人で考えること。	①活動内容や場の工夫し、個別に技能を習熟できるようにする時間を確保したり、教え合いや共有の場を設けたりして、友達と協力して技能を向上できるようにする。	運動の様子や発言、振り返りカードなどを通して評価する。

外国語活動	外国語の授業を楽しみにしている児童が多い。アクティビティやチャンツを通して、外国語で伝えることを楽しんでいる。	①アクティビティの時間にフレーズが出てこないこと。	①簡単なフレーズを繰り返しできるようにするなど、全員が発音できる機会を多く設ける。	活動の様子、振り返りカードなどを通して評価する。
道徳科	登場人物の気持ちに共感することで、道徳的心情・態度を養っている。展開後段の自分のことになると自分の考えをもつことに課題がある。	①内容項目の理解を通して、人間理解、他者理解をできるようにすること。 ②自己の生き方について考えることができるようにすること。	①内容項目の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的･多角的に考えることができるようにする。 ②学級全体での「考え・議論する道徳」となるよう話合い活動の充実を図る。自己の生き方の課題を見付け、解決しようとする思いや願いを深める。	自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容などを通して評価する。

令和８年度　授業改善推進プラン　第４学年　　小平市立上宿小学校

各教科等	児童の実態	課題（児童に身に付けさせたい力）	改善案（具体的な手立て）	評価の方法
国語科	文章のおおまかな内容を自分なりに捉えることができるようになってきている。自分の考えを、隣同士、少人数グループ、クラス全体と形態を変えながら活動している。	①目的を意識して読み、相手に伝わるように自分の考えを理由や事例を挙げて全体の前で表現すること。 ②文章構成を考えながら段落相互の関係を意識して書くこと。 ③漢字を正しく読み書きすること。	①叙述に着目して読み深めたり、グループや学級全体で自分の考えを話したり友達の考えを聞いたりする活動を設定する。 ②相手や目的を意識して、集めた材料を比較・分類する。文章構成を考えるとともに表現を工夫し書き表す学習過程を設定する。 ③漢字の意味や熟語にも触れながら学習する。	ねらいに照らし合わせて自己評価させたり、ノート等の記述を基に友達同士で評価させたり、指導者が評価して変容を認めたりする。
社会科	単元ごとに課題をつかみ、学習計画を立て、調べることに関心をもって取り組んでいる。	①課題に対して、適切な資料や方法を選んで調べること。 ②必要な情報を精選し、学んだことを表現すること。	①どのように資料や学習者用端末を活用すると効果的か、適切な資料の選び方を提示する。 ②授業の中で、問いに関連するキーワードや文章に線を引き、それを基にしてまとめる活動を繰り返す。	発表やノートなどの記述から気付きや分かったことを評価する。小単元の終わりに、「問い」についてまとめた「自分の考え」などを通して評価する。
算数科	基礎・補充コースでは、学習内容の確実な習熟を目指し、教科書の例題や類題に取り組んでいる。発展コースでは、より多くの練習問題を解いて習熟を図るとともに、交流の場で自分の考えを発信することに取り組んでいる。デジタルドリルでは、既習事項の復習を行っている。振り返りの内容を明確にして、振り返るようにしている。	①簡単な絵や図、式に表して、自力解決すること。 ②互いに解決方法を説明し、他者の思考の過程を理解すること。 ③基礎・基本を確実に定着すること。 ④振り返りでは、友達の考えのよいところを言語化すること。	①解決の見通しを共有し、既習事項を活用することができるようにする。 ②意図的に指名して、自分の考えとの共通点や相違点を考えさせる。 ③デジタルドリルを活用し、基礎・基本の定着を図る。 ④振り返りの視点を提示し、友達の考えのよいところはどこかを問い掛け、振り返らせる。	答えを導き出すまでの一人一人の考え、用語や用具の使い方を、ノートの記述や発表、説明などを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
理科	観察・実験に対して意欲的である。自分なりに予想を立てることができる。	①生活の体験などと関連付けて、自分なりの予想を立てること。 ②観察や実験の結果と関連付けて考え、結論に結び付けること。	①自分の経験や既習事項と関連付けて予想することの例を挙げ、毎時間繰り返す。 ②見本を提示した上で、結果から言えることを自分の言葉で表現させ、考察として表現できるようにする。	発表やノートの記述、気付きや疑問、まとめ方などを通して評価する。
音楽科	歌唱や、器楽の表現活動に意欲的に取り組んでいる。楽曲の特徴を聴き取り、気が付いたことを共有し合い、どのように表現したいか話し合う活動に取り組んでいる。	①　一人一人が感じた楽曲の特徴や演奏のよさに気付き、友達の考えのよさを認めること。 ②楽曲から聴き取ったことや感じ取ったことを言葉などで表すこと。	①一人一人が感じた楽曲の特徴や演奏のよさを言葉や音で伝え合い、考えを広げたり、友達の考えのよさを認めたりする場面を多く設定する。 ②言葉で表すためのヒントの提示や、ワークシートの工夫をする。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	友達と関わりながら造形活動に取り組んでいる。発想することを楽しみながら、作品をつくっているが、個人差がある。新しく学ぶ道具に関心を高くもっている。	①　つくりたいものを思い描いてイメージを広げること。 ②表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かし、表し方を工夫すること。	①　友達の完成作品や制作過程の作品を提示する。ICT を活用して制作方法や他校作品例も提示し、発想や意欲につなげる。 ②　材料や用具について、正しい使い方や特徴を学習する時間を設定する。用具の正しい使い方に慣れるように繰り返し復習をする。	活動の様子・発言・作品などを通して評価する。

体育科	意欲的な活動が見られる。教え合いや協力をしながら学習している。	①技能を向上できるようにするための方法を考える力を身に付けること。	①小グループでの学習の機会を作り、学び合い、教え合いの場を作るなどして意図的に思考することができるようにする場面を設定する。また、練習方法の提示をして、その中から個人やチームで選択したり、工夫したりできるようにする。	技能の評価だけでなく、発言や学習カードを使った振り返りなどを通して評価する。
外国語活動	アクティビティやゲームを通して、外国語を活用したコミュニケーションを楽しんでいる。	①　　言語や文化について理解を深め、日本語と外国語の音声の違いに気付くとともに外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと。	①教師が積極的に、外国語で話しかけ、外国語を話しやすい雰囲気を作る。日本語との違いを伝えながら関心を高める。	活動の様子、振り返りカードなどを通して評価する。
道徳科	登場人物の気持ちに共感させ、心情・態度を養っている。自分の経験を振り返り友達と考えを交流することによって、多面的な見方をしようとしている。	①内容項目の理解を通して、人間理解、他者理解をできるようにすること。 ②自己の生き方について考えることができるようにすること。	①内容項目の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的･多角的に考えることができるようにする。 ②学級全体での「考え・議論する道徳」となるよう話合い活動の充実を図る。自己の生き方の課題を見付け、解決しようとする思いや願いを深める。	自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容などを通して評価する。

令和８年度　授業改善推進プラン　第５学年　　小平市立上宿小学校

各教科等	児童の実態	課題（児童に身に付けさせたい力）	改善案（具体的な手立て）	評価の方法
国語科	ペア、少人数グループ、クラス全体と形態をそれぞれ変えながら自分の考えを表現している。物語・説明文では、疑問をみんなで出し合い、話し合いながら読みを深めていくことができる。	①相手の意図を考えて聞くことや、目的を意識して話をすること。 ②文章構成を考えながら、適切な言葉を使ったり、事実と感想、意見とを区別したりして文章を書くこと。 ③文脈に合った漢字を判断して書くこと。	①日常の言語活動につながるような聞くこと・話すことの場を意図的に設定する。 ②自分の考えを伝えるために、文章の構成を考えるとともに、事実と感想や意見とを区別した文章を書く学習活動を多く設定する。 ③日常的に自分で文や文章を書く活動を多く設定し、適切な漢字を判断する機会を増やす。	文章構成を考えながら、段落を正しく設定して文章を書くことができているかなどを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
社会科	学習内容に対する疑問点を挙げて、そこから課題を設定し、意欲的に学ぼうとする。作った課題について、学習者用端末を活用し、調べることができる。	①自分で「問い」をもって追究すること。 ②都道府県や国土、世界地図の見方、位置の理解や写真・図・グラフなど資料を読み取ること。	①自分の考えや疑問点をノートに書かせ、「問い」の解決に迫れるような学習活動を設定する。 ②１時間の授業の中で、地図や資料から読み取る機会を設定し、事実とそこから考えられることを明確にしながら、分かったことを話し合う機会を積み重ね、読み取りの技能を高める。	発表やノートに記述してある気付きや分かったこと、小単元の終わりに設定した課題について自分が考えたこととまとめたものなどを通して評価する。
算数科	補充コース・基本コースでは、学習内容を確実に習熟できるよう、教科書の例題類題に取り組んでいる。 発展コースでは、応用的な問題演習を通して互いの考えを共有できるよう、取り組んでいる。 習熟の時間や家庭学習でデジタルドリルを活用している。	①問題を正確に把握して立式すること。 ②小数の乗法・除法の計算（筆算）が正確にできること。	①問題文に下線を引いたり、声に出して確認したりしながら丁寧に題意を捉え、図や数直線で表しながら立式できるようにする。 ②朝学習や家庭学習を活用して、十分な演習量を確保する。	活用した手だてや答えを導き出すまでの一人一人の考え、他者の解法への気付き、ノート記述や発表などを通して評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
理科	実験方法や手順について理解している。問題に対しての予想を立てたり、結果から考察したりすることができる。	①自然の事物・現象に影響を与えると考えられる要因を予想し、観察・実験する際に、変化させる要因と変化させない要因を区別すること。 ②複数の自然の事物・現象を対応させ比べること。	①なぜその要因を変化させ、それ以外を変化させなかったのかを実験計画で、交流する時間を確保する。 ②比較する視点を明確に示した比較表や ICT を活用し、「同じところ」「違うところ」を整理しながら観察・記録できるようにする。	仮説に対する自分の考察、友達の発表やノートの記述、気付きや疑問、まとめ方などを通して評価する。
音楽科	楽曲のよさや面白さを感じ取り、どのように表現したいか考えている。友達と音を合わせる楽しさを感じながら、合唱や器楽合奏に取り組んでいる。	①友達と協働しながら、よりよい演奏を目指して表現を工夫すること。 ②楽曲から感じ取ったことを言葉で表し、友達と共有していくこと。	①個人練習、パート練習、全体練習などの学習形態を工夫し、意見を交わしながら演奏表現を深めていけるようにする。 ②言葉で表すためのヒントの提示や、ワークシートの工夫をする。ICT を活用して全体に共有する。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	楽しみながら造形活動に取り組んでいる。自分や友達の作品について、よさや面白さを感じ取っている。	①　自分の思いをもち、探究しながらつくること。 ②　材料や用具の特徴や既習事項を生かし、形や色の工夫をしてつくること。	①友達と考えを交流し、自分の考えを広げたり、深めたりする。ICT を活用して制作方法や他校の作品例も提示して、発想の広がりや活動の意欲につなげる。自信がもてるよう、個別の声かけを工夫する。 ②作りたい物に合わせた道具や材料の使い方を繰り返し復習し、定着を図る。	活動の様子・発言・作品・ワークシートなどを通して評価する。

体育科	どの運動領域も、積極的に取り組んでいる。チームで行う際には、よく話し合い、課題を解決しようとしている。	①個人もしくはチームの課題を正確に理解し、課題に合った練習方法を選択すること。 ②運動の楽しさを実感し、それぞれの技能を高め、豊かなスポーツライフを醸成すること。	①課題を客観的に捉えるために、互いに教え合う時間を設けたり、カードを工夫したり、ICT を活用したりする。 ②１時間の中で運動に取り組む時間を増やす。運動のコツが分かる掲示物を用意する。できるようになったことを認め合える環境を整える。	運動の様子、準備・片付けの様子、学習カードや授業中の発言などを通して評価する。
家庭科	裁縫や調理実習に対して大変意欲的で、興味関心をもって取り組んでいる。	①裁縫道具の取り扱いや調理実習の仕方など、手先を使って作業したり、自分や友達のよさを理解して生活に生かしたりすること。	①学習や作業を通して、友達の工夫やよさに気付き、すすんで自分にも取り入れることができるようにする。また、学習者用端末などを活用し、グループ内で教え合う環境を設定する。	計画や実習、振り返りカードで、グループでの学びなどを通して評価する。
外国語	語句や基本的表現を理解し、自分の思いや考えを表現しようとしている。	① 目的や場面、状況に応じて身近で簡単な事柄について主体的にコミュニケーションを図ること。 ② 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解すること。	① 既習事項を生かすとともに、興味・関心のある身近な事物を題材として扱い、コミュニケーションを図る。 ② 児童一人一人の課題を把握することで、適切な課題提示や声掛けをしていく。	活動の様子、発表、ワークシートなどを通して評価する。
道徳科	登場人物の気持ちを考え、話し合うことを通して、道徳的価値を理解し、自分の今までの経験と照らし合わせて考えを深めようとしている。	①内容項目の理解を通して、人間理解、他者理解をできるようにすること。 ②自己の生き方について考えることができるようにすること。	①内容項目の意義及びその大切さの理解を基に、物事を多面的･多角的に考えることができるようにする。 ②学級全体での「考え・議論する道徳」となるよう、話合い活動の充実を図る。自己の生き方の課題を見付け、解決しようとする思いや願いを深める。	自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容などを通して評価する。

令和８年度　授業改善推進プラン　第６学年　　小平市立上宿小学校

各教科等	児童の実態	課題（児童に身に付けさせたい力）	改善案（具体的な手立て）	評価の方法
国語科	自分の考えをしっかりともった状態で、少人数グループでは話合いができる。 個人差はあるものの、漢字が比較的よく定着している。	①話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、考えを比較しながら自分の考えをまとめること。 ②文章構成を考えながら、適切な言葉を使ったり、事実と感想、意見とを区別したり、図表やグラフを用いたりして文章を書くこと。	①考えを比較できるような内容で話すこと・聞くことの学習となる場を意図的に設定する。 ②自分の考えを伝えるために、文章の構成を考え、事実と感想や意見とを区別した文章、図表やグラフを用いた文章を書く学習活動を多く設定する。	自己評価や友達による他者評価を繰り返しながら、客観的に自分の表現を分析する。その振り返りを評価する。 評価テストを活用して、学習内容の定着を確認する。
社会科	社会的・歴史的事象に興味をもって、学習に臨むことができている。 毎時間、課題に対しての自分の考えを、意欲的にノートに書いている。	①資料を読み取る際に、社会的背景や既習事項と関連付けて予想や考察をすること。 ②調べたり、読み取ったりした情報を、項目ごとに分類し整理すること。	①授業の導入で、歴史的背景を常に振り返り、時代の流れや既習事項を確認した上で学習に臨めるようにする。 ②単元の終わりに、その時代の特徴や出来事を整理して文章で表現する時間を設定する。	課題に対する発言やノートへの記述を基に様々な情報を関連付けて考えられているか、単元のまとめの段階で学習事項を理解し適切に整理できているかなどを通して評価する。
算数科	学習内容の確実な習熟を目指し、教科書の例題や類題に取り組んでいる。より多くの練習問題を解いて習熟を図るとともに、交流の場で互いの考えを共有できるよう取り組んでいる。	①問題に対して既習の内容を使ったり、図や式に表したりして、自力解決すること。 ②既習の内容を確実に身に付けること。（特に通分・約分、公倍数や公約数）	①問題場面を適切な図や数直線で表すこと、求める数量をｘやｙとして立式することを、解決の手だての一つとする。解決の見通しを学習者用端末で共有し、習得した手だてを活用することができるようにする。 ②上宿タイムやデジタルドリルを活用して反復的に復習に取り組む場を設定する。	活用した手だてや答えを導き出すまでの一人一人の考え、他者の解法への気付き、ノート記述や発表などを通して評価する。 評価テストやデジタルドリルの学習状況を基に、学習内容の定着を確認する。
理科	観察・実験などの体験的な学習と映像などの教材を用いた学習に特に関心が高い。	①既習事項や自分の経験を基に、問題の予想をたてること。 ②観察・実験の結果を基に、的確な考察をしたり、学習したことを日常生活と関連させたりすること。	①既習事項を振り返ったり、自分たちの経験を共有したりする時間を設け、予想を立てやすいようにする。 ②考察カードを活用し、考察する視点や話型を示し、考察しやすいように工夫する。また、映像資料を活用し、学習内容と日常生活の関連を図る。	ノートの記述や発表内容などを通して、問題に対する予想や、実験結果に関する考えをもつ思考力・判断力・表現力が養われているか評価する。
音楽科	友達と合わせることの喜びを感じながら、音の重なりを感じ取って、合唱や合奏を楽しんでいる。楽曲の特徴、よさや面白さを感じ取り、どのように表現したいか考えている。	①思いや意図をもって表現するなど創造的に音楽に関わること。 ②友達と協働しながら、よりよい演奏を目指して表現を工夫すること。	①一人一人が感じた楽曲の特徴や演奏のよさを伝え合い、共有したことを演奏して試すようにする。 ②個人練習、パート練習、全体練習などの学習形態を工夫し、意見を交わしながら演奏表現を深めていけるようにする。	活動の様子、発言内容、ワークシート、演奏発表などを通して評価する。
図画工作科	自分や友達の作品について、よさや面白さを感じ取っている。ねばり強く取り組むことに課題が見られることもある。	①自分の思いをもち、探究心をもって表すこと。 ②つくりたいものに合わせて道具や材料を生かしてつくること。	①友達と意見を交流したり、友達の制作過程の作品を鑑賞したり、ICT を活用して制作方法や他校の作品例を提示したりする。題材によっては、自分の思いや計画をア①イディアスケッチで練る。児童の実態や思いに合った題材を設定する。 ②既習事項を活用し、確かめながら活動に取り組む。	活動の様子・発言・作品・ワークシートなどを通して評価する。
体育科	一人一人の課題と目標を決めて、意欲的に体を動かしている。 教え合いながら、運動に取り組んでいる。	①単元を通して、前時で学んだことを次時で生かして運動すること。 ②技能差に関係なく、体を動かすことの楽しさを感じさせること。	①ロイロノート等を活用し、前時での自分の振り返りを確認してから本時に入るようにする。 ②体力テストの結果も参考にして、個々の課題を明確にして、意識的に課題解決のために必要な力と	体力の向上に向けた取組態度と意欲、学習カードや授業中の発言などを通して評価する。

体育科 **（つづき）**		③自分やチームの目標を達成するために、粘り強く運動に取り組むこと。	その鍛え方を授業の中で照らして例示する。 ③毎時間チームや全体での話合いの場面を意図的に設け、目標や困っていることを明確にして話し合わせる。振り返りから取り組み方を考え活動するよう指導する。	
家庭科	学習に対して興味・関心をもって取り組んでいる。調理実習については大変意欲的である。	①裁縫道具の取り扱いや調理実習の仕方など、自分や友達のよさを理解して生活に生かすこと。	①活動後に、友達の工夫やよさをカードに振り返らせる。また、学習者用端末などを活用し、グループ内で教え合う環境を設定する。	計画や実習での作品、振り返りカードなどを通して評価する。
外国語	語句や基本的表現を理解し、自分の思いや考えを表現しようとしている。	①目的や場面、状況に応じて身近で簡単な事柄について主体的にコミュニケーションを図ること。 ②外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて日本語と外国語の違いに気付き、これらの知識を理解すること。	①中学年での既習事項を生かすとともに、興味・関心のある身近なものを題材として扱い、コミュニケーションを図る。 ②児童一人一人の課題を把握することで、適切な課題提示や声掛けをしていく。	活動の様子、発表、ワークシートなどを通して、評価する。
道徳科	登場人物の気持ちを考え、話し合うことを通して、道徳的心情・態度、実践力を養っている。	①内容項目の理解を通して、人間理解、他者理解をできるようにすること。 ②自己の生き方について考えることができるようにすること。	①内容項目につながる導入の工夫を行ったり、主発問を精選したりする。 ②自分自身を振り返る時間を十分に設定し、自己の生き方の課題を見付け、解決しようとする思いや願いを深める。	自分の考えやその変容などを、ワークシートの記述や発表の内容などを通して評価する。